



G7広島サミット
(開催期間2023・5・19~21)

設立50周年を迎えるにあたって

広島ユネスコ協会 会長 松岡盛人

本年6月、広島ユネスコ協会は、設立50周年を迎えます。1973年(昭和48年)6月23日に広島ユネスコクラブとして、会員数64名で発足しました。翌年7月の1周年記念総会で、現在の広島ユネスコ協会に改称。会員数は2003年度の151名をピークに現在約100名。半世紀にわたり事業・活動を継続してこられたのは、協会設立以来、先輩諸氏及び関係の皆さまのご尽力の賜物であります。

当協会を支えた20年以上の継続事業としては、高校生国際理解セミナー(前身は「広島ユネスコ高校生の集い」)が1978年から44年間も継続。ユネスコサロンは1988年から35年間182回を数えました。更に、広島ユネスコ活動奨励賞の表彰、「平和の鐘を鳴らそう」の集い及び韓国ユネスコ大邱協会

との親善交流の5事業があります。このほか、民間ユネスコ運動世界大会の広島開催、北京市ユネスコクラブ協会との8年間の親善交流、著名人を迎えての講演会等多岐にわたる事業・活動を展開してきました。今後とも、「不易流行」を念頭に、持続可能な意義ある事業・活動は継続していきたいと思えます。

そのためには、会員の高齢化が進む中で、青年・壮年層会員の新規加入が喫緊の課題です。ユネスコ活動を共に取り組む仲間を増やしていくべく、皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。

世界が懸念しているロシアによるウクライナ侵攻は、依然平和解決の道筋が見えない残念な状況にあります。

戦争や紛争のない世界平和の実現が一日でも早く訪れることを希求しつつ、引き続き、一致結束して、当協会の事業・活動を盛り上げ、ユネスコの理念の実現及びSDGsの達成に取り組んでまいりたいと考えています。

「50周年」へ 大邱交流の思い出

通訳として参加

協会理事 渡邊優子

広島ユネスコ協会と韓国ユネスコ大邱協会の交流行事で通訳として参加した経験について、振り返ってみようと思います。

私は両協会の会長や会員とコミュニケーションを取りながら、多くのことを学びました。

まず、広島と大邱は、それぞれの歴史や文化は異なりますが、平和や文化の保護・伝承に対して共通の関心があることを知りました。

また、両協会が行っている取り組みには、地域の課題に対する取り組みや若者の教育支援など、社会貢献につながる活動が多く含まれています。

日本語や韓国語で表現された固有の概念や文化的な背景を通訳し、的確に伝えることは容易では

ありませんでした。しかし参加者同士が相互理解を深め、コミュニケーションがスムーズになっていく様子に、通訳としてのやりがいを感じました。



交流会で通訳にあたる筆者(正面右)

今後、このような国際交流の場がますます重要になると考えられます。私たちは、地域や国境を超えた交流を通じて、異なる文化や価値観に触れ、相互理解を深めることが必要です。私自身も、大邱協会との交流を通じて、自己成長や国際感覚を高めることができたと感じています。これからも言語や文化の壁を越え、様々な人々とコミュニケーションを図り、世界平和や文化の発展に貢献できればと思います。

2022年度 広島ユネスコ活動奨励賞

◆◆ 受賞団体の紹介 ◆◆

広島ユネスコ活動奨励賞は、ユネスコ憲章の理念を踏まえ平和の文化と持続可能な社会を築く実践的な活動を顕彰するものです。

広島ユネスコ協会設立25周年を記念して創設され、多くの方々の協力を得て、今年度第25回を迎えることができました。1998年の創設以来、学校部門97校・社会部門114団体を顕彰し、今年度あらたに4校・5団体を顕彰いたしました。

各受賞団体の概要を紹介させていただき、今後さらなる活動の発展と継続を祈念いたします。

(教育部会長 坂本美智子)

【学校部門】

■広島市立五日市観音小学校 (校長 福場 強志)

この学校は、2005年から総合的な学習の時間を活用して、地域を流れる岡の下川にヤマトシジミの復活を目指す「岡の下川再生プロジェクト」に取り組んでいる。

4年生児童は、シジミの植え付け活動を通して、シジミの持つ浄化作用や岡の下川に生息している生き物調査・清掃活動などに取り組み、自然との共生や身近な環境問題を児童一人一人が考え、自分たちにできることを見つけて発信している。

また、この活動は保護者や地域の方々(五日市観音ネットワーク、広島工業大学瀬戸内海共生プロジェクト)の支援・協力を得て、現在まで継続して取り組みが行われている。

■広島市立己斐中学校 (校長 溝下 明美)

この学校は、広島市の平和教育推進校として「ヒロシマの思いを世界へ」をテーマに掲げ、英語科をはじめ総合的な学習の時間(言語・数理運用科)、道徳や国語、社会など各教科を横断的に関連付け、「平和を語る人材の育成」を目指して取り組みを行っている。

平和公園の慰霊碑について英語でガイドを行い、生徒一人一人にコミュニケーションの場を多く設定している。また、世界に目を向け異文化への興味・関心を高めさせるとともに、生徒各自に平和な社会を築くためにできることを考えさせ、ヒロシマの中学生として自分の考えを様々な方法で表現できる人材の育成に取り組んでいる。

■広島県立広島観音高等学校 (校長 堀 隆典)

この学校は、1922年創立の広島県立広島第二中



受章された学校・団体代表の皆さん①と、受章を称えるミニコンサート



学校(以下広島二中)を前身とする高等学校である。広島国際会議場西の護岸緑地には、建物疎開のために集合していて、原子爆弾投下の犠牲となった広島二中の1年生と教職員323名を慰霊・鎮魂する「広島二中原爆死没者慰霊碑」がある。

1961年に建立されて以来、広島二中戦災死者遺族委員会と同窓会により慰霊祭を実施してきたが、2002年より平和学習の一環として生徒・教職員も協力して実施している。学校独自の平和学習を長年継続して被爆体験の継承を図るとともに、平和の維持・発展に貢献できる人材の育成に努めている。

■広島修道大学 (学長 矢野 泉)

この大学は、社会連携活動の一環として、2010年度から全学部で「地域つながるプロジェクト」をスタートさせた。学生が主体的に地域社会の課題を発見し、その解決に当たって地域の様々な人や組織と話し合い、調査・研究を通して豊かな人間性を育成し、地域の活性化や魅力づくりにつなぐことを目的としている。

2017年度から廿日市市串戸市民センターと連携し、社会教育学の知識を生かして、社会関係資本(地域内外の人とのつながり)の構築やシビック・プライドの醸成を図り、地域の人と共に活動を進化させながら継続している。広島未来を拓く人材育成に取り組んでいる。

【社会部門】

■木曜通訳ボランティア (代表 西岡 志津子)

この団体は、廿日市市国際交流協会の英語通訳ボランティアが自主グループとして結成したもので、1995年10月から27年にわたってメンバーの英語学習と各種行事の通訳ボランティア活動を続けてきた。現在13名のメンバーが活動し、ボランティア通訳の依頼先として、廿日市市や各種団体の行事では広く認知されている。

廿日市市のイベントである8月6日前後の平和ツアーの企画運営や、広島市の平和公園内原爆慰霊碑めぐり・他大学からの留学生の平和記念式典参加を支援するなど活動範囲を広げ、多くの人に英語コミュニケーションや国際理解・平和の大切さを伝えている。

■被爆ピアノ友の会 (代表 手島 秀昭)

この団体は、爆心地から1.5～3kmの範囲にある民家や学校で被爆したピアノ6台を、所有者からの寄贈を受け修理・修復して保存している。

1998年に平和公園で行われた被爆証言とコンサートで被爆ピアノが初めて使用されたことを契機に、その後全国から依頼があり、これまで21年間で2500か所に被爆ピアノを運び平和イベントやコンサートに参加している。開催地の市長あてに広島市長のメッセージを持参し、ヒロシマの願いを伝えている。

また2017年、オスローにて核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のノーベル平和賞受賞記念コンサートでも被爆ピアノが演奏され、恒久平和を願う活動は国際的にも広く認知されている。

■大学生ボランティアサークル「おとなりさん」 (代表 下平 桃寧)

この団体は、広島修道大学と安田女子大学の学生が地域の子どもの居場所づくりを願いボランティア活動を行っている。2002年に学校週5日制が始まった当時、安佐南区の安学区にはまだ児童館がなく、放課後や週末における地域の子どもの

の居場所づくりの充実が求められていた。広島市教育委員会の呼びかけに応じた近隣の大学生らが、安公民館を活動拠点に子ども達の体験活動の場として「おとなりさん」を同年6月に結成、今年20周年を迎えている。

「住み続けられるまちづくりを」に寄与する役割を果たすとともに、将来的な地域人材の育成・輩出にも寄与し多面的に貢献している。

■特定非営利活動法人 I PRAY

(理事長 上久保 昭二)

この団体は、平和への願いを伝える公演活動を行う目的で1996年に設立され、現在まで27年間継続的に活動している。平和な未来へ願いを込めて一般市民の参加を募り小学生から大人までを対象としている。平和創作劇「I PRAY」は、平和の大切さと戦争のない未来を願い、原爆投下前の広島、原爆が投下された広島、復興する広島を演じるミュージカルである。

次世代を担う子どもたちが、命の尊さと平和の大切さを力の限り訴える創作劇となっており、毎年8月の定期公演に加えて国内各地の記念公演も開催している。海外では韓国やギリシアで公演し市民レベルの国際交流を行っている。

■旧被服支廠の保全を願う懇談会

(代表 中西 巖)

この団体は、旧被服支廠をはじめとする被爆建物の保全のため、2014年から被爆の実相の継承に努めるとともに平和への啓発活動を行っている。

旧被服支廠の建物見学会での質疑応答や、広島市内のピースウォークの開催、写真展、講演会の開催に加え「赤レンガ倉庫は語り継ぐ―旧広島陸軍被服支廠被爆証言集―」を刊行し、全国の都道府県立図書館等へ無料で配布する等被爆の実相を広く伝えている。

これらの活動により旧被服支廠の歴史的価値の重要性が認識され、平和のために利活用することへの理解に大きく影響を与える等、被爆の実相を伝え平和を希求する啓発活動に貢献している。

太鼓矢 晋 先生

太鼓矢 晋(すすむ)先生が昨年9月17日に旅立たれました。享年91歳でした。

先生は、協会設立25周年にあたる1998年、これからの協会の歩むべき方向性を皆で再確認しようと、記念事業としてこの奨励賞の創設を提唱、実現にご尽力され、大きく育てていただきました。訃報に接したのが奇しくも本事業の25回目の授賞式を間近かにした今年の1月半ばでしたが、改めて先生の功績の大きさを知るところとなりました。

1972年秋、設立を目指して、太鼓矢先生を中心に15人程度の協会設立準備会を立ち上げ、会議や学習会を重ねなが

ら翌年6月に広島ユネスコクラブとして盛大に発会しました。(協会への名称変更は1年後)

協会設立50周年を迎えるにあたり、準備会での代表者としての先生の東奔西走ぶり、熱情を今思い起こします。

最後まで協会のご意見番としてご指導していただいた先生に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

(協会副会長 古田 碩永)



在りし日の太鼓矢先生㊦。
左は亀井章前会長＝
2012年8月、平和の鐘

第182回「ユネスコサロン」

「出会いに学び
ともに成長する」

講師 黒瀬 真一郎さん (広島YMCA名誉理事長
奥田元宋・小由女美術館理事長)



広島ユネスコ協会主催の、第182回「広島ユネスコサロン」(2月25日開催)に参加しました。講師は黒瀬真一郎氏(広島YMCA名誉理事長、

奥田元宋・小由女美術館理事長)で、ZOOM方式も取り入れて開かれました。

黒瀬さんは私立広島女学院中・高等学校長、広島女学院理事長・院長等を歴任され長年、平和教育に力を注いでこられた方です。この日は「出会いに学



びともに成長する」～傍観者でなく、私が第一歩を～凛として幼な子のように～と題して、小学生時代の恩師、中学・高校教師時代の思い出、日野原重明・聖路国際病院元院長(理事長)の「いのちの授業」、原爆の子の像の建立や

原爆ドーム保存運動に一生を捧げられた河本一郎さん(広島女学院・元職員)、さらにスティーブン・リーパーさん(広島文化センター元理事長)らの足跡と出会いを通して、平和の文化の創造を訴えられました。

そして平和を創り出すためには、「無関心、傍観者ではなく私が第一歩を、の行動が大切です」と呼びかけられ、多くの事を心に刻ませていただいたサロンでした。(広報部会)

高校生国際理解セミナー

広島ユネスコ協会、広島市青少年センター主催の「理解セミナー」が、昨年12月11日、広島市青少年センターで開かれました。

国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所シニアアドバイザーのMs. Nassrine AZIMI(ナスリーン・アジミさん)が、「Green Legacy Hiroshima (GLH) ～Power of Sustainability～」と題して、広島の被爆樹木を通じて、世界に平和交流を進めている模様を話されました。

続いて高校生は4グループに分かれ、島津順子さん(ユニタール広島事務所リーダーシップ&インクルージョン担当課長)のリードで、身近でできるSDGsについて自由討議、発表。環境保全や助け合い運動への実践へ、「一歩踏み出すヒントと勇気」を教えていただきました。(広報部会)



北川建次元会長を偲ぶ



故北川建次氏

北川建次元会長は昨年12月9日に87歳で逝去され、同月11日(日)に葬儀が営まれました。折しも、当日は、北川先生が協会発足以来精力を注がれた高校生の集いから始まった広島市青少年センターでの高校生国際理解セミナー開催日で、私は開会挨拶等を予定していたことから、当協会から、急遽、亀井顧問と古田副会長に参列していただきました。先生は、いつもにこやかに温厚なお人柄で、泰然と対応されていた姿が印象に残っています。

北川先生におかれては、協会の前身である広島ユネスコクラブ結成時から参画され、翌年の広島ユネスコ協会発足当初は監事にご就任。その後、教育組織部会の理事を経て、1999年に会長へ就任されました。以降、歴代最長の8期16年にわたり当協会を導いていただいた後、6年間顧問を務められるなど半世紀にわたって協会の運営にお骨折りをいただきました。

北川先生は、会長就任翌年6月の韓国ユネスコ大邱協会との姉妹提携協定調印式に臨まれ、親善交流訪問がスタートしました。ユネスコ・サロンや広島ユネスコ活動奨励賞等の事業も継承していただきました。

一方、日本ユネスコ国内委員、広島市平和文化センター理事等の要職も務められ、教職面では、広島大学教授、広島国際大学教授等を歴任。ご専門は地理学で、中四国都市学会長、国土交通省や広島県、各市町村での各種審議会委員、会長として多方面でご活躍されました。

北川元会長は、ご存命中に多大な社会貢献をされており、これまでのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、心からご冥福を祈念いたします次第です。(協会会長 松岡盛人)

世界寺子屋運動

書き損じはがき・
キャンペーン報告

広島ユネスコ協会は、皆さんからお寄せいただいた、書き損じはがき等を切手に交換して、日本ユネスコ協会連盟に送付しました。この度は広島大学附属中・高等学校のユネスコ委員・ユネスコ班のご協力もいただき、多くの書き損じはがきが集まりました。

日ユ協連では、切手を企業等で現金化して、さまざまな理由で教育の機会に恵まれない子どもや大人のための「学びの場=寺子屋」を世界に設置する事業に活用しています。キャンペーンにご協力いただいた皆さんには、心から感謝申し上げます。有難うございました。(事務局長 森木学)

<会員募集>

ユネスコの精神に賛同し、協会の活動に参加したり、支援をしていただける方を募集しています。年会費(個人会員の場合)3,000円。青年(～35歳以下)は2,000円。

申込先: 森木事務局長090-7132-2284、または広島ユネスコ協会HPから検索。

当協会URL: <https://www.unesco.or.jp/hiroshima/> 入会案内へ。



広島ユネスコ協会

